

稲 山 会 通 信

第37号
2018年7月1日発行

発行人：斉藤雄二 発行所：稲門山の会事務局 TEL 03-3367-3723 FAX 03-3367-8150 ©稲門山の会1998

稲門山の会・役員会新体制のご案内

井村代表ご逝去の後、急ぎ稲門山の会役員会を開き、後任の選定に入りました。私は現役時代に幹事長をやり、春山の南アルプス全山縦走のCLをりましたが、雪や岩の実績に乏しく、ヒマラヤ・アンデスの遠征に出かけることもなく、稲山会の代表を受けるには不適任と思い、代表をやれない理由で防御して会議に臨みましたが、まだまだ年功序列が生きている社会があり、年長の私がまとめ役に適任とのことで、代表を受けることになりました。

現役及早稲田大学山の会は、時代の変化もあり、人数は少なく、ここ十数年存亡の危機にありましたが、先代、先々代のご尽力で会員は確保され、春のRCT・雪上訓練、5月の旧人山行、7～8月の夏山合宿、秋の個人山行等が元気に行われています。役員会は現役が「より大きな山をより安全に登れる」様コーチ会を設定し、支援してゆく所存です。

稲山会・役員会のもう一つの役割であるOB・OGの懇親については、総会・新年会、春・秋のハイキング等のイベントの他、ホームページ(HP)、稲山会通信の発行があります。HPは充実し、稲山会通信も評価いただいております。OB・OGの皆様のイベントへの参加を要請する次第です。

稲山会・役員会はメンバーの若返りを図っており、今年から比較的若い3人が参加することになりました。今後も積極的に若返りを図ってゆきます。新体制は以下の通りです。

斉藤雄二	(S41)	代表	稲山会通信担当
金子治雄	(S41)	副代表	現役担当
新井昭夫	(S46)	総務・会計	現役担当
島田弘康	(S46)	広報	稲山会通信 HP 担当
松村幹雄	(S48)	行事	新年会 ハイキング担当
常数英昭	(S49)	企画	役員会若返り 若手 OB 担当
倉川秀明	(S51)	行事	役員会若返り 若手 OB 担当
後藤洋一郎	(S49)	総務	現役担当
行方正幸	(S50)	総務	現役担当
柴原至	(S52)	企画	役員会若返り 若手 OB 担当
名達一彦	(S50)	事務局	

皆様方の稲門山の会へのご協力をお願いする次第です。

平成30年7月

稲門山の会代表 斉藤雄二

追悼 井村英明さんの思い出

稲門山の会代表の井村英明さんが代表のまま、本年 1 月 25 日にご逝去されました。井村さんのご冥福をお祈りする次第です。井村さんを偲んで、現役時代を中心に、同期入会の斉藤雄二（S41 年卒）が思い出を語り、卒業後は、コロンビア・アンデス遠征を含め、後輩の豊田紳二（S47 年卒）OB に、定年後は付き合いの深かった同窓の田野辺親遠（S40 年卒）OB に思い出を辿ってもらいました。（文責：斉藤雄二）

井村さんの思い出（現役時代を中心に）

井村さんと私は昭和 37 年同期入会ですが、井村さんは 2 年生で学年では 1 年上でした。井村さんと私は同じ厚生部に入部し、最初の山行は 6 月後半の厚生部上越山行でした。夏合宿は井村さんが北鎌パーティー、私は平パーティーで、集中地・雲ノ平でシケモクを吸いながら山行の厳しさに、ぶつぶつ言い合ったりしました。11 月の冬山会山行偵察では白馬の小蓮華まで行きましたが、下山中に井村



1962 年 12 月乗鞍岳雪上訓練、右端が井村さん

さんが滑って発電水路の土管で頭を打ったのですが、皆の心配は土管が壊れてしまったのではないかとということでした。この年乗鞍雪上訓練で雪崩事故があり、冬山会山行は中止となりました。翌年 3 月に山行が解禁となり、厚生部山行で巻機山に行きました。ほぼ毎日が吹雪でしたが、突然の晴れ間に登頂が出来ました。下山時スキーを履かされ、数メートルごとに尻をつき、井村さんも同様に、リーダーを恨みました。5 月の旧人合宿は一緒に穂高・涸沢定着に参加しました。

井村さんは 3 年生になるとリーダー会のメンバーになり、2 年会員の私とはだいぶ格違いとなりました。同行した山行はまず 6 月の厚生部山行・剣岳で、井村さんはサブリーダーでした。新人の面倒を見るのが中心で、一緒に登った成果は八ッ峰上半ぐらいでした。7 月の夏合宿、井村さんは北ア第一パーティーのサブリーダーになり、何の因果か、私はこのパーティーに参加しました。阿曾原から

剣沢を遡行中に、新人の一人がバテてしまい、元気な 2 年会員に負担がかかりました。新人を井村さんと針ノ木で下ろし、稜線への帰りに（黒四）間組の飯場に泊めてもらい、おいしい白米をご馳走になったのは、懐かしい思い出です。秋の厚生部山行は塩見岳から北岳への縦走で、井村さんはサブリーダーでした。冬山会山行は塩見岳で、井村さんも私も二等兵で、歩荷中心でしたが、登頂は出来ました。3 月の春山合宿は遠見尾根から鹿島槍を狙い、井村さんは鹿島槍に向かったのです



2015 年 7 月白馬岳大雪溪出合にて

が、時間切れで登頂は出来ませんでした。私は唐松岳に向い、時間的な余裕もあり、無事往復できました。この日の夜、稜線直下に張ったテントがドカ雪に埋まり、ほうほうの体でテントを抜け出しました。隣のテントは完全に雪に埋まり、井村さん達は、私達が救出しました。紙一重で大事に至らず幸運でした。

井村さん 4 年生の時、5 月の厚生部山行で剣岳に出かけました。この時井村さんと二人でハッ峰の上下を 3 時間位で踏破しました。ずっとコンテで片方が右に落ちたら、もう片方は左に落ちる約束事がありました。その後井村さんは、夏合宿の涸沢定着、雪上訓練合宿、春山合宿に参加されました。私も同行していますが、私と個人的に山に登るということはありませんでした。

井村さん卒業後、コーチ会で時々会いました。山は一度だけ、一ノ倉沢烏帽子奥壁を厚生部 OB (秤・飯泉・井村) の皆さんが登っている時、事故があり、救助応援で一緒になったくらいです。私の 6 年生での卒業後は、殆ど没交渉でしたが、30 年後、私のロンドン駐在時、井村さんも住まわっていて、たまたま日系のモール、ヤオハンで会い、旧交を温めました。

定年退職後は井村さんから「山の会 50 周年記念誌」作成に誘われ、山を含めてのお付き合いが再開されました。ここ十数年の井村さんとの山行は 2007 年 5 月の穂高・涸沢、2008 年 3 月の木曾駒、2011 年 10 月の赤岳、そして最後が 2015 年 7 月の白馬三山縦走でした。白馬山行は OB 会が企画したものに現役が加わりました。私が山でバテルという初体験をした山行で、以後、私は大きな山は敬遠しています。井村さんは雪渓で現役の足場作りをしたり大活躍でした。でもこの山行が井村さんにとっても最後の山行となりました。尚、この間井村さんは日本山岳会の役員をされ、ヒマラヤの前衛峰にも登られていますので付記しておきます。(齊藤雄二記)



1973 年コクイ山群登山終了後に

井村先輩の思い出 (卒業後を中心に)

1973 年アンデス遠征、登攀隊長は井村さん。ベネズエラ最高峰 Pico Bolivar(5,007m)南壁の最初のアタックは井村・北岡の二名、岩壁下部の 30-40 メートルの氷壁を左に避けた後、リッジで行き詰まり敗退。二次アタック、平井・豊田は氷壁を直登後、右方向に登攀を続け、途中で左方向に折り返し、5,007m の頂上に達する。

コロンビア Cocuy 山群、20 日間の活動中晴れたのは 1 日だけ、それも 4-5 時間だけという悪天候



2013 年高松山ハイキングにて

の中、詳細な地図もない。時々訪れる短時間の晴れ間に地形・山容を確認しながら、Pulpito 峰 5,220m、Concavo 峰 5,174m、Pan de Azucar 峰 5,085m に登頂。井村登攀隊長も偵察にアタックにフル活動。

井村さんとの出会いは 1968 年。登山未経験で山の会に入部した私の初めての山行に同行して頂いた。この後の数年は毎年ご一緒し、山歩きの基本からザイルワークなどを教えてもらう。

1968 年 6 月 八ヶ岳新人合宿

1969 年 5 月 北鎌尾根

1970 年 5 月 明神岳東稜

家庭や仕事で山に行けず、山歩きを再開してから、井村さんに誘われてご一緒。

2012 年 11 月 中央アルプスにて和田 OB 搜索

2013 年 6 月 現役学生の八ヶ岳合宿

2013 年 天覧山 RCT を 2 回

2014 年 天覧山 RCT を 1 回

井村さんは生涯現役の「岳人」でした。私も生涯現役を目指します。（豊田紳二記）

井村英明君の思い出（定年後を中心に）

井村とは同期ですが現役時代はあまり山行を共にしたことはありませんでした。所属した部がちがったこと、彼はより困難の中に高みを求めるアルペン指向、私は縦走・やぶ漕ぎ指向という、相違があったことにもよるのではないかと考えています。卒業後は、彼は長く海外勤務、私は長く大阪勤務で会うことさえありませんでした。私が東京に戻った後、同期の仲間たちと年に何回か山に登っておりました。そこへ彼が海外勤務から帰国し、行ったのが秋の巻機山でした。卒業以来ほぼ 30 年ぶりのことでした。その後、仲間たちも高齢化（？）のせいか、次第に欠け、残ったのが彼と私でした。



2007 年 5 月 潤沢への道



2015 年 3 月 現役雪上訓練、黒百合平にて

その後の彼との山行は、安達太良山（2011 年 5 月）、夏沢鉱泉から東天狗岳（2012 年 3 月）は悪天のため退却、北穂高岳（2012 年 5 月）、東天狗岳（2013 年 3 月）は前年のリベンジ、槍ヶ岳（2013 年 5 月）、蝶ヶ岳（2015 年 5 月）これが最後の山になりました。“どっか行かないか”で始まり、きちっとした計画書を EXCEL で作ってくれました。小屋に着けばメザシやスルメで酒、山を下りれば蕎麦屋を探して天ざるで一杯。

私は十年来チロルに行っています。2 年ほど前、彼を誘いましたが実現しませんでした。思えばこの頃自分の体の変調に気付いていたのかもしれませんが。彼こそは「死がそれを分かつまで山を愛し、登り続けた男」でした。（田野辺親遠記）

2018 年稲門山の会総会・新年会報告

2018 年度の総会・新年会が、現役学生を含む 55 名の参加を得て 1 月 27 日に大隈会館で盛大に開催されました。

開会に先立ち、1 月 25 日に急逝された井村代表のご冥福を祈り黙祷を捧げました。斉藤副代表・金子副代表の挨拶に続き、役員の紹介・挨拶および会計報告がありました。

特別講演として、国立極地研究所名誉教授の山岸久雄氏から「南極の自然と動物、観測隊の人たち」というテーマで、南極観測に関連する興味深いお話を伺うことが出来ました。山岸氏は越冬隊 3 回、夏隊 3 回を経験された南極観測のスペシャリストで、新井幹事の高校の同窓生という縁でご講演をお願いしました。

今年も上田前代表による「安全登山祈願」を厳かに執り行い、今年 1 年の山行の安全を祈願しました。現役学生の紹介では、現役学生 7 名の紹介があり、昨年度の印象に残った山行などを話してくれました。

懇親の間では久しぶりの再会に話も弾み、旧交を温めるなか予定時間の 3 時間は瞬く間に過ぎました。最後は渡辺 OB の発案により、故井村代表を偲んで「早稲田の栄光」を皆で合唱し、故人の「山の会」に対するご貢献に感謝し哀悼の意を表しました。その後全員で肩を組み校歌の大合唱で締めくくり、別れを惜しみつつ来年の再会を誓い合いました。



集合写真



山岸氏の講演を熱心に聴く



上田前代表による安全登山祈願



現役学生の自己紹介



最後は肩を組んで校歌の大合唱

総会・新年会出席者

S33 年卒 上田 OB
 S35 年卒 宮野 OB
 S36 年卒 新川、清水、廣瀬、西山、山本各 OB
 S37 年卒 加納、東、恩田、鈴木(健)、篠原、胡桃、打矢各 OB
 S38 年卒 宇野澤、栗又、松村(啓)、白倉、吉田各 OB、小久保 OG
 S39 年卒 真下、三宅各 OB
 S40 年卒 田野辺、笠原、梅崎、関根、山崎、長谷川各 OB
 S41 年卒 斉藤、金子各 OB
 S42 年卒 渡辺 OB
 S43 年卒 上原、太郎良各 OB
 S46 年卒 島田、新井、福田各 OB
 S48 年卒 松村(幹)OB
 S49 年卒 箕打、神谷、鈴木(良)、常数、後藤各 OB
 S51 年卒 石原、倉川各 OB
 S52 年卒 狩野 OB
 H18 年卒 中村 OB

現役学生 真藤(4 年、元幹事長)、厚木(3 年、前幹事長)、利藤(3 年、幹事長)、井上(3 年)、
目次(3 年)、衣斐(1 年)、岡田(1 年)

講 師 山岸 久雄氏 (国立極地研究所名誉教授)

島田弘康 (S46 年卒)

現役天覧山ザイルトレーニング

写真撮影：斉藤雄二（S41 年卒）

3月14日、天狗岳の雪上訓練山行を翌日に控え、雪上訓練にも必須なザイルワークトレーニングを天覧山で実施した。

トレーニングは雪上訓練山行に行く1年生3人と、ザイルの扱いに習熟した3年生2人の5人で行った。天気にも恵まれ、充実したザイルワークのトレーニングができた。

参加者：利藤（3年）、井上（3年）、
柳田（1年）、衣斐（1年）、岡田（1年）



訓練に参加の5人



登攀、懸垂下降、確保等の訓練を役割を変えて繰り返し行いました

八ヶ岳天狗岳雪上訓練山行

島田弘康（S46 年卒）

3月15～17日に八ヶ岳天狗岳にて雪上訓練山行を行った。今年は1年生が4人参加したことから後藤OBがコーチに加わり、十分なサポート体制で雪上訓練を行った。天狗岳往復となった最終日は天気にも恵まれ、山頂からは素晴らしい眺望も得られた。参加者は現役5人（利藤、衣斐、柳田、阿部、岡田）およびOB4人（金子、新井、島田、後藤）の計9人。



東天狗岳山頂にて

3月15日（晴れ）

茅野駅に11時集合しジャンボタクシーにて渋ノ湯に向かい11:40着。橋の手前で身支度を整え12:30出発。金子OBトップで登山を開始し、八方台分岐での休憩を挟んで15:30黒百合平着。天幕

設営後アイゼンを装着してヒュッテ前の斜面で滑落停止、トラバース等雪上歩行訓練を行う。天気予報では16日は荒天だが17日には回復が見込めることから、天狗岳往復は17日とした。



滑落停止基本姿勢の訓練

3月16日（雪、風）

小雪混じりの悪天候のため午前中の訓練は中止。午後からヒュッテ前の斜面で雪上訓練。キックステップでの登降、滑落停止訓練、ザイルを用いた確保訓練等を行った。

3月17日（晴れ）

快晴の中、7:05黒百合平を出発し中山峠を経て天狗岳に向かう。天狗ノ鼻の急斜面凍結のため慎重に登り8:50東天狗岳到着。しばし休憩の後黒百合平に下山。天幕撤収後、11:15黒百合平出発、13:00渋ノ湯着と金子OBトップで快調に下る。渋御殿湯の温泉に浸り汗を流す。茅野駅前のそば茶屋にて電車の時間まで歓談。



快晴のなか天狗岳に向かう

春のハイキング（石老山）の報告

松村幹雄（S48 年卒）

2018 年春のハイキングは 4 月 8 日（日）、関東百名山の一つ、相模湖南岸の石老山へ行きました。中央線相模湖駅からバスで 8 分の「石老山入口」で下車。恒例のラジオ体操の後、金子 OB を先頭に気持ちの良い晴天の下、登山を開始すると満開の枝垂れ桜が迎えてくれました。今回の参加者は最高齢の吉田 OB、松村(啓)OB に初参加の加賀谷 OB も加えて OB が 13 名、学生は新入生も含めて 13 名、合計 26 名と久しぶりの大人数でした。

登山口から山道に入ると、杉の森の中に次々と奇岩が現れ、神秘的な雰囲気を感じながら約 20 分間登って行くと約 1200 年の歴史のある顕鏡寺に着きました。さらに登って行くとだんだんと展望が開け相模湖を眼下に望む融合平展望台で休憩しました。OB 同士、学生同士、OB と学生も話が弾みます。登山開始から約 2 時間後の 12 時 20 分、標高 702m の石老山山頂に到着しました。正面に丹沢主脈、右手に富士山を眺めながら、昼食休憩と歓談です。

下りでは、大明神展望台で相模湖と高尾山～陣馬山の稜線の景色を楽しみました。3 時前にはプレジャーフォレスト前のバス停に全員下山しました。入浴を希望する学生が少なかったので、計画を変更して、八王子に出て、駅前の居酒屋で恒例の OB・現役合同の懇親会を開催して、春の楽しい 1 日を締めくくりました。

コースタイム

相模湖駅 9:45＝石老山入口バス停 9:53（10:25）～石老山山頂 12:20（13:00）
～プレジャーフォレスト入口バス停 14:50

参加者

OB：吉田（S38）、松村(啓)（S38）、斉藤（S41）、金子（S41）、佐久間（S43）、太郎良（S43）、田邊（S45）、島田（S46）、新井（S46）、福田（S46）、松村(幹)（S48）、加賀谷（S50）、倉川（S51）

現役：利藤（4 年・幹事長）、真藤（修士 1 年）、井上（4 年）、柳田（2 年）、阿部（2 年）、岡田（2 年）、〔新人〕：蟹江（2 年）、樋口（2 年）、王（1 年）、島貫（1 年）、高麗（1 年）、土屋（1 年）、Wu（1 年）



石老山山頂にて

投稿「遠い山 もう登らない山に」

小久保雅代 (S38 年卒)

白馬の山里に暮らして 20 年になります。ひと昔とってよいほど時は過ぎました。昭和 34 年山の会に入会し、新宿から夜行で信濃四谷駅に降り立ち、大きなキスリングを背負い、細野集落を通り、山に入りました。あの頃の岳人には懐かしい信濃四谷が白馬に、細野は八方に変わりました。今は山ガール、外国人登山者が行き交う八方で、毎日、後立山の峰々を眺めながら暮らしています。

このところ激変する天候不順で、梅雨明け 10 日の夏山日和も無いようで、山行計画にとまどいながらも、夏山シーズンが過ぎて一息つく頃には、涼風が吹き行く夏を惜しむ。秋が深まり稜線からの紅葉が里に降りてくると、村のどこでも冬支度に追われ忙しくなる。毎年のことながら身の引き締まる思いで冬を迎える。清々しい新雪の山を眺める日は僅か、里は深い雪に覆われ、長い冬ごもりに入る。



5 月の白馬村

五竜岳をシルエットに夕陽に輝く雪煙、凍てついた無風快晴の明け方に見る西山のモルゲンロート、満月の夜、月明かりに照らされた雪山は幻想的で神々しい。冬ならではの美しい風景を楽しんでいるうちに、粉雪から泡雪が舞うようになると、雪解けて色づく春は近い。

山里の美しい自然、山の息吹きを感じながら毎日見ている五竜、鹿島も、もう登らない山、遠い山になってゆく。ふとそんなことを思い始めていた時、ヒマラヤ行きを誘われた。思いがけないことで、判断に困り、子供に相談すると「僕の登った山（コンデ・リ）が見えるから行ったらいいよ」の一言で決めた。

エベレストベースキャンプ、カラパタール (5,550m) 2011 年 10 月 10 日～31 日

急なことで心の準備も出来ないまま、ネパール・カトマンズの地を踏んだ。世界の屋根の上空を飛ぶには不似合いと思える小さい飛行機でルクラへ。エベレスト BC までの長い旅の一步が始まる。

登山道と言うより里山の生活道。畑の脇から鶏が横切り、振り分け荷物を積んだヤクの群れとすれ違う。道端で遊ぶ子供たちにナマステ（今日は）、なんとも閑かな道を歩いてナムチェバザールへ。2 日程高度順応して、気持ちも体調も整える。ヒマラヤの秀峰に囲まれた山間の町ナムチェ。深い谷を隔てた向こう側に会いたかったコンデ・リ (6,187m) が堂々と聳えている。

心配していた長い吊橋も、リズムを掴むと快適に渡れるようになり、ロッジ毎に味が違って美味しい食事も、長い行程の何よりの楽しみになってゆく。エベレスト街道をタンポジェ、ディンポジェと山奥に入っていく筈なのに、地形は開けて明るい。大きな氷河を詰めた先がカラパタール、無事到着。BC 入口から見るエベレストはローチェと重なり、上の方が少し見えるだ

け、少々期待外れの感動でした。

初めてのヒマラヤ・トレッキング。重いザックを持たないで歩くことの後ろめたさ、沢山の出会い、これまでの山歩きとの違いに驚くことばかり、でもそれが大きな魅力なのかもしれません。

アンナプルナサウス BC (4,130m)	2012 年 11 月 14 日～28 日
ランタン谷・ゴサインクンド (4,380m)	2013 年 4 月 8 日～26 日
ポカラ、タダパニ、プーンヒル (3,200m)	2013 年 10 月 19 日～29 日
(石楠花咲く) プーンヒル	2015 年 3 月 31 日～4 月 10 日

コンデ・リ 2015 年 11 月 5 日～18 日

再びルクラから登山者のざわめきも懐かしい街道筋を歩いてナムチェに入る。シェルパの里クムジュンなど散策、高度順応して、ターメからコンデ・リの山腹に取り付く。急斜面に幾重にも連なる深い山壁を、丹念にトラバースして行く長い道程。一般的なツアーコースではないので、行き交う人も無い。1 日中歩き続けて辿り着いたコンデ・リ南峰のテント地 (4,250m) には誰もいない。

名峰タムセルク、カンテ・ガ、アマダブラの遥か奥にローチェ、エベレストまで一望。素晴らしい、ぜいたくな眺め、吸い込まれそうな静寂。テントに入るのも惜しくて、いつまでも星空を見上げていた至福のひと時。ヒマラヤ最後の旅になりました。



コンデ・リ南峰のテント地 (4,250m)

ウズベキスタン クンベル山 2014 年 6 月 17 日～27 日

パキスタン・カラコルム・フンザ 2014 年 10 月 17 日～27 日

「白きたおやかな峰」北杜夫の舞台。ディラン峰を間近に見あげ、小型機でナンガパルバットの頂に迫った時は、思わず感激の涙。

ドロミテ	2015 年 7 月 13 日～21 日
ピレネー	2016 年 6 月 20 日～28 日
チェルビニア・アオスタ溪谷	2016 年 7 月 8 日～17 日
ファンシーパン山 (ベトナム最高峰)	2016 年 11 月 21 日～26 日
ティデ山 (3,718m スペイン最高峰)	2017 年 5 月 20 日～27 日
モンゴル・テレルジ (大草原を馬で駆ける旅)	2017 年 6 月 10 日～15 日



モンゴル大草原を馬で駆ける

フランスアルプス・エクラン山塊

2017年7月12日～22日

憧れのアルプに憩い、花めぐりなど 異国の野山の駆け歩き。

北アの山々には遠くなっていたけれど、黒部五郎にはもう一度登ってみたいと思い、3年前、新穂高から双六、黒部五郎を目指した。双六小屋で天気予報を確かめると、天候は崩れるというので、黒部五郎は止めることにして、双六岳に向かう。歩き始めて何かが違う、異国の山歩きと。地に足がついている、山の故郷に帰ったみたいで、踏みしめる一歩一歩が嬉しい。



アルプスに咲く花、ベルナ・リンドウ

三俣の稜線に出ると、遠い日の懐かしい山々が。夏合宿の雲ノ平集中登山。槍沢コースに始まり、裏銀、薬師、あのコース、このコースが目の前に広がる、今は無い伊藤新道も。あの天場で気象通報を聞き、天気図を書いたこと、食当は何故かいそいそと楽しく、新人は大きな鍋を、雨に濡れてずっしり思いテントを、ザックの上に寄せ黙々と歩いた。「薪割り水汲み小屋掃除、みんなでみんなで作ったっけ～、今ではみんな遠く去り、友を偲んで仰ぐ空」・・・心に響いてくるあの歌、そう、ここが私の山登りの原点だったと、若き日の山々が鮮やかに蘇りました。

五葉山 (1,341m) 姫神山 (1,124m)	2015年5月
日本国 (555m) 山形・新潟県境	2015年12月
霧訪山 (1,305m) 長野県・塩尻	2016年5月
七時雨山 (1,063m) 岩手県	2016年10月
立山・浄土山 (2,831m) 富山県	2017年7月
雌阿寒岳 (1,499m) ・摩周岳 (857m) 北海道	2017年10月
大滝根山 (1,192m) 福島県	2018年4月

ここ数年の山旅です。

かつて歩いた山々に、車窓から見た山々が加わる。特に残雪期の大糸線から五竜・鹿島・針ノ木・常念・蝶ヶ岳。中央線、小淵沢駅を過ぎる辺りから早川尾根の上に北岳が顔をだす、肩を並べるように地蔵の頭が続く。

気象部春合宿で、御座石鉱泉から雪道を歩いた鳳凰三山も忘れられない山行です。



2015年12月日本国山頂にて

甲府盆地を回り込んで、笹子トンネルに入る手前、白根三山から塩見まで見渡せる絶景も見逃せません。遠い山、もう登らない山に、懐かしい道が繋がってゆきます。

OB 会役員、常数英昭さんによる現役の皆さんへの登山教室が行われ、その内容を以下の通り報告して貰いますが、ページ数の関係で前半・後半に分け、今回は前半分の報告になります。後半は次回 38 号にて報告いたします。（編集者）

投稿「山の会登山教室（前半）」

つねかず
常数英昭（S49 年卒）

1. 登山教室開催の経過

最近の山の会現役部員は大学内で会う機会や飲み会の機会があまりなく、山に行く時以外にも親睦、連携を深めるためと、机上で登山に関する知識を身に付けるため、OB 役員が講師になって登山教室を開催することが役員会で決められた。

それに基づき、平成 29 年度は次のとおり登山教室を開催した。

○夏山講習

第 1 回 2017 年 7 月 5 日 18:15～20:15

第 2 回 2017 年 7 月 14 日 18:15～20:15

○冬山講習

2017 年 12 月 20 日 18:15～20:15

夏山講習、冬山講習とも現役学生が 8～9 名、OB が 4～5 名参加した。会場は学生会館内のオープンスペース、部室、会議室をそれぞれ利用した。

筆者が現役の頃（1970 年代前半）は、授業がないときは部室に行って、雑談をしたり、置いてあるノートに雑感や連絡事項を記入して、それを読むのが楽しみであった。ノートに「神田川」の歌詞が記載されていたことを覚えている。最近は必要事項はスマートフォンのライン等で連絡をして、直接顔を合わせる機会はあまりないようである。

今回、登山教室を行って、一定の知識の習得と、部員相互の親睦が図られたとすれば、会活動の向上に寄与できることであり今後も続けていきたい。

2. 夏山講習の概要

前記第 1 回、第 2 回とも筆者が講師として同じ内容で行った。内容は気象教室として、主に夏山に必要な気象知識を講習した。内容のポイントは次のとおりである。

- ① 気象に関する基礎知識の復習：気圧とは？ 高気圧、低気圧、降雨、降雪等のしくみ。
- ② 天気図の読み方、（できれば）天気図作図練習
- ③ 山での気象に関する注意点、観天望気等
- ④ 遭難事例によるケース研究
 - a) 夏山における低体温症：北海道トムラウシ山周辺（ツアー登山）
 - b) 夏山における落雷：西穂高岳稜線（高校夏山登山行事）
- ⑤ 実践として入山 1 週間～3 日前頃から新聞等によって天気図を確認することの奨励。

- ⑥ 山岳天気予報：民間天気予報会社によるインターネット等での天気予報の活用。
- ⑦ その他

3. 気象知識 Q&A

夏山講習を行うにあたって、導入として参加者に次の問題を考えてもらった。解答方法は、()がある問題は()内に語句または数字を記入する。()がない問題は文章が正しければ○、誤っていれば×をつける。

- ① 1 気圧は 1013.25hPa (ヘクトパスカル) である。(=760mmHg) これより低い気圧を低気圧、高い気圧を高気圧という。
- ② やかんで水を沸かしたときの湯気は水蒸気の集まりである。
- ③ 霧は地表付近で発生した雲と同様のものと考えられる。
- ④ 100 メートル登ると気温は平均()度下がる。
- ⑤ 海岸近くで海風、陸風が吹く場合、日中は()が、夜間は()が吹く。
- ⑥ 日本付近の冬の典型的な気圧配置は()高()低である。
- ⑦ 落雷を避けるには金属性の物体から離ればよい。
- ⑧ 高気圧のところでは上昇気流、低気圧の所では下降気流が生じている。
- ⑨ 標高の高いところは太陽に近いのに気温が低いのは、太陽の熱が放射熱として伝わるからである。
- ⑩ 台風は熱帯低気圧のうち、中心気圧が 970hPa 以下のものをいう。
- ⑪ 気象庁のアメダスは日本全国各地の降水量を計測するシステムである。
- ⑫ 風は低気圧の中心から吹き出す。
- ⑬ 全天で雲の量が 0～1 割以下の場合を快晴、2～7 割の場合を晴れ、8 割～10 割の場合を曇りと定義する。
- ⑭ 温暖前線、寒冷前線などの前線を伴わない低気圧がある。
- ⑮ 移動性高気圧は春と秋によくみられる。

正解は次のとおり。

- ① [×] 1 気圧は 1013.25hPa は正しい。1 気圧は水銀柱が 760mm になるときの大気圧で、海面の高さでの平均的な気圧である。「低気圧」は周囲より相対的に気圧が低いところを言い、「高気圧」は相対的に気圧が高いところを言う。1 気圧を境として低気圧、高気圧が分かれるわけではない。なお、1992 年の計量法改正により、大気圧の単位がミリバールからヘクトパスカルに変更された。筆者はミリバールと言いたくなってしまうが。
- ② [×] 湯気は水が沸騰して水蒸気になってやかんから出て、それが空気に触れて冷やされてできる細かい水の粒の集まりである。水蒸気は目に見えない。
- ③ [○] 空気中に含まれる水蒸気が地表近くで冷やされて小さな水滴になったものが霧。水滴が地面に接しているものが霧で、地面に接していないものが雲。山に雲がかかっているとき、低地にいる人からは雲で、山でその中にいる人からは霧である。山での霧をガスと呼ぶことがある。

- ④ (0.65) 気温は平均的に 100 メートル標高が高くなるごとに 0.65 度低くなる。温度が低くなる割合を気温減率という。
- ⑤ 日中は(海風) 夜間は(陸風) 陸地は比熱が小さく温まりやすく冷めやすい。海面(水) は比熱が大きく温まりにくく冷めにくい。日中は陸から上昇気流が生じて海から風が吹く。夜間は逆になる。
- ⑥ (西) 高(東) 低 冬はシベリア高気圧(気団) の勢力が強まって張り出し、北西の季節風が吹く。冬は、大陸は海洋に比べて比熱が小さいため温度が下がって、気圧が大陸で高く海洋で低くなる。
- ⑦ [×] 雷は材質が金属でも木製でも落ちる。雷は乾いたものより濡れたものに落ちるということも誤り。雷は突起状のもの、高いものに落ちる傾向がある。尖った岩や高い木の下に避難することは危険である。
- ⑧ [×] 高気圧の中心部では下降気流が生じ、低気圧の中心部では上昇気流が生じる。空気が上昇すると気圧が低下して、温度が下がり、小さな水滴ができる。これが雲である。
- ⑨ [○] 地球は太陽光の放射によって暖められている。放射は空気をほとんど素通りし、初めに地表を熱する。熱せられた地表が空気を下の方から温める。このため④の気温減率が生じる。
- ⑩ [×] 台風は北西太平洋に存在する熱帯低気圧のうち、最大風速が 17.2m/秒 (34 ノット) 以上になったものをいう。気圧ではなく、風速で定義する。台風は温帯低気圧のような前線を伴わず、大きな渦を作っている。
- ⑪ [×] アメダスは、全国約 1300 か所に設置された無人の気象観測施設。降水量、風向、風速、気温、日照時間、積雪を観測して、1 時間毎に観測データを気象庁に送っている。一部を除いてほぼ 21 km 間隔で設置されている。(AMeDAS—Automated Meteorological Data Acquisition System)
- ⑫ [×] 高気圧では下降気流が地表で外側に吹き出し、時計回りの渦巻状に外側へ吹く風となる。
- ⑬ [×] 快晴は雲量が 0~1、晴れは雲量 2~8、曇りは雲量 9~10 の場合。
- ⑭ [○] 温暖低気圧は前線を伴う。熱帯低気圧は前線を伴わず、等圧線が円形で中心部で密になる。
- ⑮ [○] 移動性高気圧は中国大陸で生まれて、日本列島上空を西から東に向かって進む高気圧。春と秋に見られる。

(以下次号に続く)



会員近況報告

－ 2018 年総会・新年会の「返信はがき」より －

◆清水正昭 (S33) 7 回目の戊年迎えました。井村代表の出席勧誘のお手紙拝見、同感です。しかし私の場合、医師より冬期間は遠出しないうえに、大変申し訳なく残念ですが、新年会は欠席させていただきます。 ◆三浦郁代 (S34) 新しい名簿をお送り下さいまして有難うございました。 ◆小島閑 (S35) 一応元気にしています。 ◆宮野準治 (S35) 大町に私の大好きな鹿島槍ヶ岳を遠望する墓を求めましたが、私より先に女房が先住人になりました。皆さんも好きな山が見えるところに墓を求めることを勧めますヨ。 ◆上田敦子 (S34) 稲山会通信・新名簿有難うございました。倉川さんの投稿「パプアニューギニア・ココダトレイル踏破」は大変興味深く、読み応えのある素晴らしい記事でした。太平洋戦争の悲惨さにあらためて思いを馳せました。 ◆武井靖子 (S35) 益々のご発展を祈ります。最後の夏合宿は台風の為途中下山になってしまい、残念な思い出です。 ◆山下幸秀 (S37) 新年会は家内の 1 周忌法要と重なりました。76 歳でした。 ◆新川浩司 (S36) 新年会には、ここ 2 年程欠席でしたが、今年は出席出来そうです。 ◆山本貴次 (S36) 相変わらずの生活です。 ◆滝沢信一 (S36) 井村代表より情熱溢れる手紙頂きました。大雪降らない限り新年会に出席します。 ◆恩田和夫 (S37) いよいよ「八十路」を辿ることになりました。山靴も山板もどうやらもう無理のようです。これからはハイキングシューズに履き替えて、彼の日々の懐かしい山々を眺めながらの「山里歩き」を楽しみたいと思います。自分なりの“低名山”を探しながら……。 ◆金子弘吉 (S37) 当方は元気で過ごしております。 ◆内藤錦樹 (S37) 山はご無沙汰していますが、歳相応に元気にしています。 ◆打矢之威 (S37) 狭心症の発作が頻発してから山登りはストップしました。冬はもっぱらスキー、それ以外はゴルフと海外の聖地巡礼の旅をしています。今年 80 歳になりました。家内はアメリカ (オレゴン州・ポートランド) に住んでいるので、時々ご機嫌伺いに訪米しています。 ◆青木一隆 (S38) 稲山会通信 36 号の金子治雄君が執筆された「笠ヶ岳」に興味深く拝読致しました。そして 50 年前、夏合宿の CL パーティーとして笠ヶ岳・針ノ木間を縦走しましたが、特に笠ヶ岳と針ノ木岳は再び訪れることはあるまいと感傷的になりがちに歩いたのを覚えております。山歩きが出来なくなり、私にとって金子君達の再挑戦のレポートを楽しみにしております。 ◆古林美穂子 (S38) 立派な会報と名簿を有難うございます。山はすっかり遠くなりましたが、お陰様で元気に過ごしております。 ◆栗又功雄 (S38) 体力の衰えを強く感じる歳になりました。山の絵を描いているので、そのために山に登っています。出来るだけ登れる山を探しています。 ◆関一雄 (S38) 昨年庭で転倒、入院、1 年間リハビリ中で、情けないことになっています。 ◆松村啓之亮 (S38) 山に行ってはいませんが、酒の席には出席致します。 ◆稗勤 (S39) 2017 年は妻の介護元年となりました。市内外出は 2 時間を上限とし、1 日の外出時はショートステイを利用し、暇ありません。厚生部食料係の経験が大いに役立っています。 ◆高森淳一 (S39) 老人を対象とした登山、ウォーキングの会に入会し、福岡市近郊の低い山にのぼっています。 ◆磯部映美 (S39) 山は月 2 回程度、低山のみです。 ◆松本公一 (S39) 体調を崩してから、リハビリ、通院、自宅周辺の散歩中心の毎日ですが、少しは病気との付き合い

い方になりました。昔、屋根裏に LP レコード 150~200 枚位しまっていたことを思い出、探してみました。1 枚 1 枚クリーニング後、試聴。雑音、歪みは少しありますが、結構聞けます。再生、録音装置も代え、マイ CD 他作成しました。月 2 回程度のコンサート鑑賞等、音楽にはまっています(山は無理なので)。 ◆真下健弥 (S39) 元気で遊んでいます。 ◆藤井榮二 (S39) 元気やっております。新会員名簿を懐かしく見させて頂きました。送付有難うございます。 ◆金榮紘夫 (S39) 最近専ら映像 (BS の「日本百名山」等) で山を楽しんでおります。 ◆中込治文 (S39) 木彫・陶芸に没頭している時が最高の時です。最近老いた一人身の姉の老々介護に追われています。 ◆鈴木明人 (S40) 元気です。 ◆笠原豊 (S40) 今年は孫と山に登りたいと思っています。 ◆関根聰一郎 (S40) 社交ダンスを勉強中です。ステップを覚えられず、四苦八苦の連続です。 ◆井上昌代 (S40) 大きな山は遠くなり、六甲の裏山を歩いていますが、北海道、蔵王とスキーは頑張っています。 ◆山崎征彦 (S40) 「目黒区シルバー人材センター」の仕事と月 1 のゴルフで 1 年が過ぎました。まだ“飲める”ことを感謝し、今年をクリアしたいものです。 ◆長谷川徹 (S40) 平成 29 年 7 月立山から薬師 4 泊縦走。仲間 100 名山達成祝い。10 月磐梯山で仲間の 100 名山達成登山。ゆっくりペースで登っています。 ◆斉藤雄二 (S41) 昨年は尾瀬に日光キスグを見に行っただけで、山行よりも山の写真を撮っています。 ◆布村征司郎 (S41) 今年も元気に初体験に遭遇できることを楽しみにしています。昨年の初体験は①甲子園選抜観戦、②天文台で土星の観測、③自分の為の HAPPY・BIRTHDAY 合唱 (呉稲門会)、④火災の第一発見・通報。 ◆小田晟 (S41) 普段の生活は何の支障もありますが、時により困難なこともあり、新年会に出席することが出来ません。ご了承ください。 ◆海野俊男 (S41) 一病息災もまた良しという日常を送っています。山靴などは、東京の孫に譲りました。 ◆久富征夫 (S43) 2 年前にガンの手術をしましたが、完治いたしました。しかし年々体の衰えを感じております。 ◆渡辺征二 (S42) 山の方は故あってご無沙汰ですが、行きたい気持ちが募っています。だんだん身体のあちこち若い頃とは違うなど痛感しますが、これといった不具合はなく健康そうに生活しています。 ◆佐久間正昭 (S43) 秋に下肢静脈瘤の手術をして 3 か月の謹慎を余儀なくされました。その後何とかランニングは続けていますので、1~3 月の大会には出場出来そうです。 ◆上原敏行 (S43) 元旦に高尾山に行き初日の出を拝んできました。 ◆太郎良博 (S43) 昨年に引き続き今年も山歩きを楽しみたいと思います。 ◆丹治和男 (S44) 生活慣習病と付き合っています。 ◆宮前一雄 (S44) 元気に暮らしております。山は余り行っていないですが、そこら辺を歩き回るのは好きです。 ◆新井昭夫 (S46) 事故の無い範囲で山とスキーは続けたいものです。 ◆神谷哲郎 (S49) 新年会に初めて参加させていただきます。 ◆西山一夫 (S49) 最近ベトナム出張が多いので、近いうちベトナムの山に行こうと考えています。 ◆鈴木良一 (S49) 3 年前退職してから少しずつ易しい山に登るようになりました。 ◆後藤洋一郎 (S49) 所属山岳会メンバーに行方不明事故が発生し、捜索の為何度か山に入っております。 ◆小竹正雄 (S51) 昨年春から中学時代の同級生 3~4 人と月に 1 度、近くの山に登っています。“登山”というより“山歩き”です。今年は「尾瀬ヶ原・尾瀬沼」山行を計画中です。 ◆狩野雅 (S52) 2017 年 11 月に会社を退職し、今後の身の振り方を考えながら過ごしています。山スキーを最新版に代え、ハーネス、ヘルメット等を物色中です。 ◆志知和彦 (S52) 元気にしています。昨年はダイエットで 30 キロの減量。今年は体力をつけて筋力向上を目指したいと思っています。 ◆角田清隆 (S52) 無職です。人間ドッグに行つて

きました。まだ大丈夫な様です。 ◆亀田吉史 (S52) 昨年 7 月、日原鷹巣谷に 20 年ぶりの沢登りに行ってきました。沢登り初体験のアメリカ人と山頂にたどり着きましたが、雨の中ヘッドランプを頼りに日原についたのは 8 時過ぎで、疲労困憊でした。 ◆米山不器 (S54) 11 月に医療関係の会社に転職した関係で、週末の出勤があり、新年会と重なってしまいました。今は見習い期間であり、仕事優先にさせていただきます。若者に混ざって医療人として再出発しています。 ◆里方昭彦 (S58) 毎年 1~2 月は出張が多く、今年もスケジュールがたてられず、新年会欠席します。 ◆中村達 (H18) 卒業して早や 10 年、新年会になかなか参加できませんが、今年は参加したいと思っています。

(文責：役員会)

秋のハイキング (丹沢・大野山) のご案内

今回は丹沢南西部にある代表的な山、大野山のハイキングを計画しました。723m の頂上周辺は牧草地が広がり爽快な気分です。また頂上からは丹沢湖、丹沢・道志の山々、箱根連山、富士山の眺望も楽しめます。OB・現役合同で秋の一日、楽しいハイキングをしましょう。皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日 時：2018 年 10 月 7 日 (日) 9:25 集合

集合場所：小田急線新松田駅前 富士急湘南バス停①番
(9:35 発西丹沢ビジターセンター行き)

行 程：新松田駅～大野山入口バス停～共和小学校～イヌクビリ～大野山
～嵐～谷峨駅～新松田駅 (コースタイム 3 時間 45 分)

幹 事：新井昭夫 (S46 年卒) araia@nifty.com 080-1161-5306
松村幹雄 (S48 年卒) mykof04@s5.dion.ne.jp 080-5175-9695

参加ご希望の方は 9 月 30 日迄に上記幹事宛にご連絡下さい

2017年度会計報告（2017年1月1日～12月31日）

稲門山の会

単位：円

項 目	収 入	支 出	残 高	備考欄
前年度からの繰越金（預金・現金計）			3,722,570	
年会費（振込分）	290,000			4,000円 x 72.5名
年会費（新年会時入金分）	168,000			4,000円 x 42名
新年会会費	270,000			6,000円 x 45名
Tシャツ代金	2,000			
預金受取利息	94			郵便定期預金利息
収入合計	730,094		4,452,664	残高は繰越金を含む
新年会費用		468,180		大隈会館支払
稲山会通信作成費用		40,600		35号、36号
名簿作成費用		78,340		
東京都山岳連盟年会費		20,080		
HPサーバー管理費用		42,960		ホームページビルダーサービス
山の会共同装備購入費用		200,000		ザイル、バーナー、フライ等
60周年記念Tシャツ追加作成費用		44,005		
同郵送費用		9,283		
新人勧誘費用		29,809		新人歓迎会費用補助
登山教室教材費		29,980		
雪上訓練費用		23,210		ジャンボタクシー代
生花代		16,200		小島OB（S41年卒）献花
資料作成費用		6,620		プリンターインク（トナー）代
銀行振込手数料		5,616		
事務局費用		13,600		役員会会議室代
事務局費用仮払		100,000		稲山会通信・名簿等発送費用
支出合計		1,128,483		
収支合計	730,094	1,128,483	3,324,181	単年度収支 ▲398,389
項目別預金残高内訳書				
一般会計：ゆうちょ銀行口座			524,716	通帳残高額を確認済
年会費入金振替郵便口座			305,534	通帳残高額を確認済
みずほ銀行口座			478,559	通帳残高額を確認済
特別会計：遭難対策費（ゆうちょ銀行定期預金）			1,000,000	通帳残高額を確認済
遭難対策費（みずほ銀行定期預金）			1,015,332	通帳残高額を確認済
預金合計			3,324,181	

上記の会計報告を致します

会計幹事 新井昭夫

（尚、別途会計監事が銀行通帳残高書と照合済です）

編集後記

早いもので井村さんが亡くなられてほぼ半年が経ちました。まだ「おいユウジ」と声を掛けられる気がします。編集担当の私・斉藤が井村さんと親しかったこともあり、役員会の同意も得て、井村さんの追悼（思い出）を今 37 号に掲載しました。卒業後と定年後については豊田紳二（S47 年卒）さんと田野辺親遠（S40 年）さんに思い出を辿ってもらいました。有難うございました。

近況報告については出来るだけ、書かれたそのままを載せました。上田敦子（S34 年卒）さん、青木一隆（S38 年卒）さん、松本公一（S39 年卒）さんの文章が印象的でした。有難うございました。

今回の投稿は小久保雅代（S38 年卒）さんと常数英昭（S49 年卒）さんにお願ひしました。小久保さんの白馬山麓での生活は（懐かしい信濃四谷や細野集落の名称を思い出させ）詩的で綺麗、ヒマラヤ・カラコルムを含む世界中のトレッキングは圧倒的、でも心のよりどころは、かつての山の会の山行とのこと、感動しました。

常数さんは OB 会の役員として、現役に、山の気象等の講習をされましたが、その内容を投稿して貰いました。纏めるのが難しい内容なので、ご苦労されたかと思います。大作なので前半・後半に分け、今回は前半のみとなりました。ページ数の制限があり、ご容赦下さい。

さて私事です、年齢 75 歳、後期高齢者となり、山はしんどくなりました。春のハイキング・石老山に参加し、何とか付いて行けましたが、北アのような大きな山はもう無理な様です。OB 仲間で開催されている夏の雲の平や秋の涸沢も気持ちは動いても、体が動きそうもありません。山麓で山の写真を撮ることに専念したいと思っています。

井村さんが好きだった山、一緒に登った山の写真を下に添付しておきます。

斉藤雄二（S41 年卒）



1964 年 3 月遠見尾根より鹿島槍を狙う



1964 年 5 月ハッ峰踏破



2007 年 5 月涸沢、北穂と鯉幟



2008 年 3 月中央アルプス千畳敷カール